

企業名	三洋グラビア株式会社				
役職・代表者	代表取締役社長 原 敬明				
本社所在地	長野県伊那市西箕輪 2415				
電話番号	0265-72-1511	設立年	1961年	従業員数	164名
URL	https://sanyo-gravure.jp/				

該当するSDGsのゴール



自社紹介及びSDGs取組の概要

長野県伊那市に本社と工場がある食品を主な内容物としたフィルムパッケージを一貫生産するグラビア印刷会社である。GP認定を取得、安心&安全をキーワードに持続可能な社会に貢献する“がんばるパッケージ®”で百年企業を目指している。

伊那市は他地域同様に少子高齢化、労働人口の減少を抱えている。当社が安定して事業を継続、雇用を創出し、優秀な人材に活躍してもらうことが地方創生につながっていくと考えている。ただし、1企業の取り組みだけでは効果は小さい。

そこで、上伊那8市町村の産学官組織が構成団体となる「郷土愛プロジェクト」に立ち上げから関わり、次世代育成や地域づくりを実践している。例として、中学生、高校生に対し「キャリアフェス」「就活準備合宿」など地元企業をアピールし、地元就職へとつなげている。地域の人材育成、雇用・働きがいの魅力ある職場づくりを進め、地域の活性化を実現している。

取組のきっかけ、背景

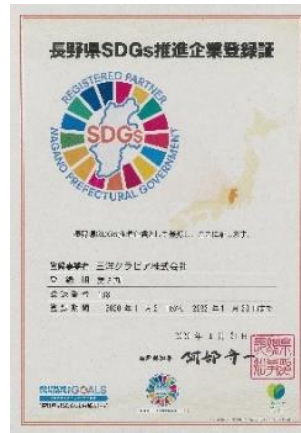
- プラスチックを主原料としたフィルムパッケージの企画・製造を主力事業としているので、環境配慮は自社の責務と捉えこれまでも様々な取り組みをしてきた。
- SDGsが提唱され、「長野県SDGs推進企業登録制度」が2019年4月に開始となり、自社の現状分析、課題整理を実施、第3期登録企業となった。毎年の進捗報告で達成状況を確認しながら、継続的に取り組んでいる。

取組の進め方

- 長野県SDGs推進企業登録制度登録のための様式の169の指標に対し、具体的な取り組みを明文化することで現状分析、課題が明らかにできた。新たな目標を立てる必要はなく、SDGsの指標に沿っていることが確認でき、2030年に向けて長期で取り組むべく指標を明らかにした。

具体的な取組、製品・サービス

- 食品を主な内容物としたフィルムパッケージをオーダーメイドで一貫生産している。国際規格に適合した品質保証体制と食品安全管理体制で、お客様に安心して安全に使用頂ける軟包材をお届けしている。安心&安全をキーワードに持続可能な社会に貢献する“がんばるパッケージ®”で百年企業を目指し多様化する顧客市場ニーズに応えている。
- 長野県伊那市に本社と工場のある当社は、地域の人材育成、働きがい魅力ある職場づくりを進め、雇用の創出に貢献する。
- 上伊那8市町村の産学官組織が構成団体となり、従来の枠組を超えて協働しながら、次世代育成や地域づくりを「郷土愛プロジェクト」を開始した。当社では立ち上げ時に関わらせて頂いた。
- 郷土愛プロジェクトでは、たとえば大人の社会見学的なバスツアーを企画。地域の山から切り出した材木を製材している会社に行き、家ができるまでを見学。行政や学校の先生に対し地域の民間企業はそこで働く人々への関心を高めて頂く工夫をした。長期的継続のために、行政の上伊那広域連合が深く関わっている。
- その後、この地域を出てしまう前の中学生、高校生に地元の企業にどのようなところがあるか、楽しく働く大人の姿を見てもらいイベントを開催。「キャリアフェス」、「かみいなシゴトフェス」、「就活準備合宿」などを行い、Uターン就職に繋がっている。
- その他重点的な取組は、(1)環境方針に基づき、リデュース（減容化）、モノマテリアル化、バイオマス化を中心とした主原材料の有効活用や水性グラビアの技術開発及び主要エネルギーの節減を図る。(2)国際規格に適合した食品安全体制で顧客ユーザー、消費者が安心して安全、かつ高齢の方、障がいをお持ちの方でも簡単に利用できる軟包材の開発に取り組んでいる。



長野県SDGs推進企業登録証

取組んだ成果、効果（取組前後の変化）

- 大学、短大からの依頼で代表者が出前授業を行っている。
- 就活準備合宿で出会った学生の入社。
- 環境面では、CO2排出、廃棄物排出、水使用量削減、化学物質使用量削減、ロス削減、水性使用量増加、バイオマス原料使用率増加に繋がっている。

今後の予定、展望

- 環境面では、目標値(2018年度比1割減)を設定、水性インキ、バイオマス原料の使用率増加を目指す
- 安定した雇用の創出が地域創生に繋がると考え、引き続き事業に邁進しながら郷土愛プロジェクトなどの地域事業に参画していきたい。